

校木 ～ はんの木 ～

〔 ハンノキ(榛の木) 学名: *Alnus japonica* 〕

私たちが住む栄北小学校の地域は、昔は札幌村烈々布とよばれていました。烈々布とは、アイヌ語で「はんの木の多く繁るところ」を意味すると言われています。

はんの木は、土地がじめじめとした湿地に生える木で、この木が生えている土地は、水はけが悪く、農地には向いていませんでした。私たちの祖先は、大変な苦勞をしながら、土地を耕して農地に変えていきました。「はんの木」には、先人の苦勞や努力した心が込められています。その心を栄北の子どもたちに伝えたいという強い願いから、校木として定められました。

開校した年(昭和 47 年)の2年後の昭和 49 年に、近隣の農家の氏家さんから、「はんの木」の大木1本を寄贈されました。学校の裏庭の噴水池の脇に植えたのですが、次の年には残念ながら枯れてしまいました。昭和 49 年には苗木 400 本が寄贈され、その中には「はんの木」20 本もありました。PTAや当時の校長・職員の手で校地内に植えられました。現在は、2 本(校舎東側とグラウンドバックネット裏)に減りましたが、今でも栄北小の歴史を静かに見守っています。

